

2016 年度 世界展開力強化事業
中南米との大学間交流プログラム（短期留学）帰国報告書

国際食料情報学部・国際バイオビジネス学科・1年 川村 怜

1. 当初の目的

本プログラムでの当初の目的は次の3つでした。

- A) 食についての専門的科目を現地メキシコで学び、農業関連施設へのインターンシップに参加することで、総合的に南米における食に関する問題を知ること。
- B) 上記のように学んだことを踏まえ、日本の農業と重ねながら南米の今後の経済的効果を探ること。
- C) そして最後に、チャピング自治大学の学生と自らコミュニケーションをとって、メキシコ人の雰囲気を感じること。

以上の3点の目的を達成することに心がけ、このプログラムに挑みました。

2. 目的達成のために現地で活動したこと

はじめに、A) 食についての専門的科目を現地メキシコで学び、農業関連施設へのインターンシップに参加することで、総合的に南米における食に関する問題を知ることについて。

インターンシップ先は本来ならば東京農業大学を卒業された鈴木さんが経営している農場でお世話になる予定でしたが、となりの州の治安があまりよしくなくなったので、日墨協会というところでインターンシップさせていただきました。

日墨協会に今回インターンシップで行くと知るまでは、恥ずかしながら私は名前を聞いたことがなかったのですが、そこはたいへん有名なところであり、今の天皇が皇太子であったときに、メキシコへ行かれた際に日墨協会でも木を植えたそうです。

当時は背の低かっただろう木も今や大きな木になっていて、時の流れを感じました。

さらには、安倍総理大臣がメキシコへいらした際にも日墨協会へ出向いていたそうで、ここは日本とメキシコの架け橋のようなところなのだなと思いました。

さて、そこでは主に庭園の手入れをされていて、私たちは落ち葉拾いなどのお手伝いをさせていただきました。

そのためインターンシップ先で実際にメキシコの農業について知ることはありませんでしたが、その代わりにたくさんのお話を教えていただきました。

日本庭園ということで桜の木が何本かあったのですが、やはり気候が日本とは違うため、本州の桜は育ちが悪いそうです。一方、沖縄の桜の育ちはかなり良くたくさん開花していました。葉を人間の手によってわざと落とすことで咲くとおっしゃってしま

た。自分は国際バイオビジネス学科のため、農学科や造園学科が専門であるようなお話しを聞くことができ、なかなかない機会だったのですごく新鮮でした。

さらにその方のおっしゃることによると、最近メキシコではかつては育たなかった亜熱帯の植物が育つようになったといいます。

日本でも稲の栽培が北海道でも出来るようになったように、この地球温暖化の問題は世界共通であることを改めて実感しました。

日墨協会の庭園を通して、メキシコ人と日本人の性格の違いも分かりました。

庭園を案内してくださった方は、プロの庭師でした。その方は、その地域の自然と性格は一致しているという考えをもってらっしゃいました。そのためメキシコ人とは対照的に日本は四季があるため穏やかなのだとおっしゃっていました。

個人的に、このお言葉はすごく納得があるものでなるほどと思いました。

曰く、メキシコは標高が高く（メキシコシティの標高は約 2200 メートル）太陽の光が強いので、原色が好まれるそうです。そのためなのか、そこの日本庭園も日本にあるものより花が多く使われているとおっしゃっていました。

次に B) 日本の農業と重ねながら南米の今後の経済的効果を探ること。について。

現地ではあらゆる施設を案内していただきました。そのなかでチャピング自治大学が運営しているチーズ工場に見学をした際、すごく効率の良いシステムを教わりました。

そのチーズ工場では、チャピング自治大学の畜産学科の学生が授業の一環で育てている牛のミルクを使いチャピングオリジナルチーズをはじめとしたさまざまな種類のチーズを作っていて、さらにはそのチーズをチャピング自治大学の食堂へ毎日無償で届けているそうです。チーズだけではなく、牛乳やヨーグルトも無償で届けているそうです。

驚くべきはそれだけではありません。チャピング自治大学の学生は授業でそれを作ることもしていると言うのです。

学生が学び作って、チャピング自治大学に無償で送って食べて。これは素晴らしいシステムだなと思いました。広大で土地が広ければすることのできる可能性の幅が広がるのだと考えました。

もしかすると、日本では難しいのかも分かりませんが、東京農業大学もこのようなシステムを做えたならとてもいいと思います。

また、授業を受け実際にメキシコの農業の問題を知ることができました。

それによると、テキラで有名なメキシコですが、最近ほかのさまざまなアルコール飲料が強くなったことにより、その消費量が下がっているそうです。

さらに、牛肉は消費量がどんどん下がっていることに対して作る量が年々上昇しているため価格が下がっているとのことでした。

これは、輸出量第一位が牛肉であるメキシコにとって、とても大きな問題であるようでした。

他にも、私たちはメキシコシティから少し離れたところへ行き、現地の農家さんを訪

ねました。

そこではチャピngo自治大学の穂積先生が案内してくださりました。

穂積先生は、水と牛や豚のフンを混ぜてバイオガスを発生させる研究をされている方らしく、訪ねた家々はほとんどがそのシステムを取り入れていました。

水とフンを使用することで一日分のガスをそれによって賄えるわけでありますから、とても経済的です。

さらに、そのバイオガスを作る際の化学反応を終えたものはごみではなく、肥料になるそうです。

チャピngo自治大学はこのシステムを一軒一軒に回って作ったそうですが、今ではたくさん農家さんがそれを利用していました。

このシステムは日本にもあるそうですが、なかなか大きな農家でないとならしく、日本にも取り入れることができたら経済的にも環境にもよいと思いました。

そして最後に、C) チャピngo自治大学の学生と自らコミュニケーションをとって、メキシコ人の雰囲気を感じること。について。

現地ではチャピngo自治大学で日本語の授業をとっている学生をはじめとしたさまざまな学生と交流しました。メキシコの方はやはりフレンドリーな人が多く、すぐに仲良くなることができました。

しかし、行く前まではいくらスペイン語が公用語だからといっても、アメリカ合衆国となるゆえに多少なりとも英語をしゃべることができると思っていましたが、それは間違いで、ほとんどの学生がしゃべることができないので少し苦戦しました。

そうではあっても、わずかながら知っているスペイン語やチャピngo自治大学の学生が話してくれる日本語を頼りに身振り手振りでコミュニケーションをとることができました。

とある英語が堪能な学生にかねてからずっと気になっていた「なぜメキシコ人はそんなにフレンドリーなのか。」を聞いたところ、「それはメキシコ人に流れている血がそうしている。」といていたのはとても興味深かったです。

彼女はこのフレンドリーなメキシコ人が大好きで、これはほかのどの国にも負けない。といていました。メキシコ人はすごくメキシコを愛しているのだなと思いました。

3.目的達成度と自己評価

私はこの短期留学でメキシコの文化、習慣、価値観、性格、農業・・・などあらゆる分野について幅広く知ることができました。

ですが、個人的に2週間という限られた時間のなかで上記の目標を完璧に達成するのは難しかったです。

しかしながらその中で、例えば今メキシコにおける農業の問題が例えば物はあるのに経

営の仕方がわからないため農業者が儲かっていないという状況は、やはり現地にいったからこそ知ることができたことであり、多くを学ぶことができたと思っています。

他にも、

4.この留学を踏まえた今後の取り組み

先述した通り、スペイン語ができずに苦勞をしたので今後はスペイン語を勉強していきたいと思っています。

また、現地で知り合った人たちとこれからも SNS を通じて交流を深めていきたいと思っています。

さらに、日本でもインターネットや本などを通してメキシコの農業を知ることができると思うので、もっと学んで、微力ながらメキシコの力になることが出来たらいいと思っています。

5.プログラムに対する要望

私たちはメキシコに派遣される前、向こうの公用語がスペイン語ということでスペイン語のレッスンを受けました。難しい言葉ではなく、あいさつなどの生活するために使う仏用最低限の言葉をたくさん教わりました。そのため行く前に習っていて良かったと思う場面が多くありました。

私は、それに加えてメキシコの歴史（特に古代アステカ文明やメキシコとスペインの歴史）を学んでから行くべきだと思いました。

実際現地では、メキシコの歴史を英語で教えてもらう機会が多くあり、事前に学んでいたならもっとスムーズに理解することができ、さらには的確な質問をすることでもっと現地の人ならではの情報を引き出せるのではないかと思い、それができなかったことに多少なりともふがいなさを感じました。

そのため、来年の派遣生にはぜひそのメキシコの歴史を学んだうえで渡航してほしいです。

加えて、あらゆる学科の学生が募るとよりよいと思いました。

今回は畜産学科の方と、農学科の方、そして国際バイオビジネスの3つの学科が集まりましたが、例えば日墨協会では、やはり造園または森林学科の方がいれば、より多くのことを学べた気がします。

最後になりましたが、私は今回のプログラムに参加することで2週間という短い期間ではありましたが、おかげさまでとても充実した日々を送ることができました。

国際協力センターの山田さん、マイさんをはじめ関わったすべての方に感謝でいっぱいです。

今後ともチャピング自治大学と東京農業大学が友好的な関係であることを心より祈ります。